

生産者世帯ではこの数年、穀類からの摂取割合は低下して動物性食品が増えるなど次第に改善されてきたことがうかがえる。

### 3) 脂 肪

脂肪の給源となる主なる食品は動物性食品、油脂類、豆類、穀類などであるが、そのうち動物性食品の占める割合が最も高く消費者世帯37.6%、その他の世帯31.2%、生産者世帯29.9%となっている。

穀類からの摂取率は生産者世帯が19.2%、次でその他世帯18.6%、消費者世帯15.5%の順でありその他の食品群については各業態間の大きな差はみとめられない。

## 4. 栄養欠陥による身体症候

国民の食生活は栄養的に欠点の多い穀類偏重の食生活であるため良質蛋白質、脂肪、ビタミン類、カルシウム等に欠け易く、このため栄養素の不足に起因すると考えられるいろいろな身体症候の発現を招いている。特に昭和31年からの米食率の増大にともなって身体症候を一つ以上持つ者の割合、すなわち有症者率は31年頃までは22%前後であったものが32年には25.9%、33年及び34年は24.4%と多発し憂慮すべき状態にあった。しかしながら昭和35年度成績では、ようやくここ数年来高かった米食率が漸く減少したこと、動物性食品、油脂類摂取量の上昇したこと等によって身体症候も前年の有症率24.4%が21.1%と大きく減少を示した、しかしそれにもかかわらずいままなお国民4.7人に1人の割合で有症者が存在することは国民の食生活のあり方に反省の必要を感じさせる。

### 1) 全国的傾向

国民の栄養欠陥による身体症候の発生率は第23表のとおりで、前年の発生率24.4%が本年は21.1%に減少を示した。

調査項目別にその発現状況をみると、最も高率に発現しているのはビタミンB<sub>1</sub>の不足に関係するとみ

第23表 身体症候発現率の年次推移

	24年	28年	32年	34年	35年
有症者率	19.7	22.6	25.9	24.4	21.1
貧血	2.7	2.5	2.6	2.4	2.3
毛孔性角化症	1.1	2.4	3.5	2.9	3.0
口角炎	5.9	4.7	6.3	5.7	4.7
けん反射消失	7.6	7.4	10.5	10.9	9.1
ひ腹筋圧痛	—	—	6.5	6.2	5.2
浮腫	1.5	1.7	2.6	2.7	2.7

られるけん反射消失とひ腹筋圧痛であるが、これも前年より若干減少して9.1%、5.2%となっている。

次いでビタミンB<sub>2</sub>の欠乏が原因とみられる口角炎が前年の発現率5.7%が4.7%に減少したが、ビタミンAの不足に関係する毛孔性角化症や、貧血、浮腫については大きな変化はなくそれぞれ3.0%、2.3%、2.7%などとなっている。

次に年齢階級別にみると、年齢を増すごとに有症率は増加しており、特にけん反射消失、ひ腹筋圧痛、貧血、浮腫は年齢の増えるに従って発生率も高く、40才以上で13.2%、7.8%、4.0%、5.7%と最高値を示している。

しかし口角炎、毛孔性角化症は5~14才の学令期にあるものの発生率が高い。

次に性別の発現状況をみると口角炎は女子の4.6%に対し男子4.9%と男子が高いが口角炎以外の症候はすべて女子の有症率が高く男子のそれを上回っている。

第24表

## 身体症候の年齢階級別発現率

単位=%

	5才未満	5 ~ 9	10 ~ 14	15 ~ 19	20 ~ 24	25 ~ 39	40才以上
有 症 率	7.1	16.9	17.5	17.6	19.6	22.8	28.8
貧 血	0.6	1.3	1.2	1.3	1.4	2.5	4.0
口 角 炎	3.3	7.1	5.7	3.3	3.4	4.0	4.8
毛孔性角化症	1.4	4.6	4.9	3.6	2.8	2.1	2.4
けん反射消失	2.3	4.8	5.7	7.6	9.4	11.5	13.2
ひ腹筋圧痛	0.2	1.8	3.4	4.8	6.2	6.8	7.8
浮 腫	0.0	0.4	0.6	1.5	2.4	3.1	5.7

中でも特に浮腫は男子の1%に対し女子は4.1%で大きな差がみられる。

また有症率においても女子は23.6%で男子の18.0%に比べ罹患率が著しく高い。

次に5月と11月の別に発現状況を比較してみると5月の有症率は22.2%で11月の19.9%を上回っている。また各症候別にみると5月は毛孔性角化症、けん反射消失、ひ腹筋圧痛、浮腫の発現が多く貧血、口角炎は11月の発現率が高い。これは前年とかなり異なった傾向を示している。

## 2) 業態別発現率

業態別に発現状況をみると生産者世帯の食生活は米食偏重の傾向が強く副食の食品構成が貧弱なため消

## 身体症候の業態別発現率

第25表

(生産者世帯と消費者世帯の比較)

単位=%

	有症者率		貧 血		口 角 炎		毛 孔 性 角 化 症		け ん 反 射 消 失		ひ 腹 筋 圧 痛		浮 腫	
	生産者世帯	消費者世帯	生産者世帯	消費者世帯	生産者世帯	消費者世帯	生産者世帯	消費者世帯	生産者世帯	消費者世帯	生産者世帯	消費者世帯	生産者世帯	消費者世帯
昭和32年	30.8	22.0	3.4	2.0	9.5	4.0	4.2	2.9	12.1	9.4	7.2	5.8	2.4	2.7
昭和33年	29.2	20.9	2.7	2.6	9.8	3.8	4.2	3.0	10.6	8.8	6.5	4.9	3.0	2.6
昭和34年	28.7	21.0	2.6	2.3	8.7	3.2	3.7	2.2	11.8	10.3	7.0	5.5	2.4	3.0
昭和35年	24.6	18.6	2.6	2.1	7.3	3.0	3.8	2.4	9.0	8.9	7.0	4.1	2.3	2.6

費者世帯に比べて発現率は高い。しかし年々改善の傾向をみせ、特に本年は米の摂取量が前年に比べ3.4%も減少したこと動物性食品、油脂類の摂取量が伸びていること等が影響してか前年の有症率28.7%が24.6%に大きく減少した。

## 有症者率の業態別発現率

第26表

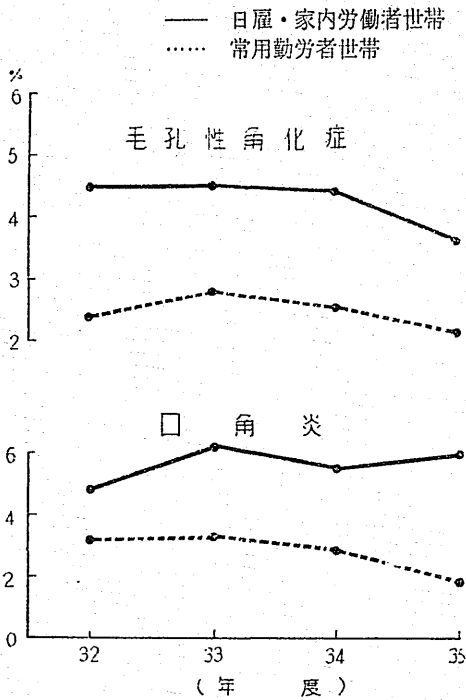
(消費者世帯細分・5月)

	32年	33年	34年	35年
事業経営者世帯	22.2%	23.1%	19.8%	19.8%
常用勤労者世帯	19.8	20.5	20.5	17.8
日雇・家内労働者世帯	26.3	26.4	24.0	22.9
その他の消費者世帯	27.6	23.2	21.6	20.8

その結果前年まで生産者世帯より有症率の低かったその他の世帯が本年は25.3%で最も高くなっている。

各症候別にみると生産者世帯は他の世帯に比べて貧血、口角炎、ひ腹筋圧痛が多く、その他の世帯は毛孔性角化症、けん反射消失、浮腫が多い。消費者世帯は何れの症候も発現率は最も低い。

第3図 身体症候の業態別発現率  
(消費者世帯細分・5月)



次に5月調査の消費者世帯を細分した結果についてみると、有症率の高いのは日雇・家内労働者世帯で22.9%、次いでその他の消費者世帯の20.8%、事業経営者世帯の19.8%となっており常用勤労者世帯は最も低く17.8%である。

また有症率の最も高い日雇・家内労働者世帯と、最も低い常用勤労者世帯について症候別に比較してみると第3図のとおり、毛孔性角化症、口角炎など両世帯の間には著しい差異がみられ、日雇・家内労働者世帯の貧困な食生活内容が、ここにもうかがえるわけである。

### 5. 体 位

わが国民の体位は終戦前後に著しい低下を招いたが食糧事情の好転、栄養改善指導の徹底、体育の進展、学校給食の普及などに伴っておおむね昭和27、28年頃には戦前の水準にまで回復し、その後も順調な足どりで向上している。

このことについては既に前年度の国民栄養調査成績におい

て詳しく述べておいたが、これらの傾向は本年度においても変わりなく身長、体重の対前年の増減をみると、第28表のとおり、青少年の体位は殆んどすべての年令を通じて増加し、特に発育盛りの年令層での向上が著しい。

すなわち身長についてみると男子の11~15才では0.6 cm、女子の11~13才では1.2~1.5 cmの増加がみられ、また体重においても、男子の12~16才では0.6~1.8 kg、女子の10~15才では0.5~1.2 kgと増加しており一段と向上の跡がみられる。

このような伸びは特に女子の場合、戦後でも最も大きな伸長率であり発育盛りの女子の体重がますます向上の傾向にあることを示している。

次に35年度における青少年の成長に伴う身長の増加量について戦前の傾向と、終戦直後の22年に実施した国民栄養調査成績との間で比較検討してみよう。

この35年の成績をみると昭和22年に比べて4~5才、8~9才の2年令を除くと13~14才以下の年令層ではすべて22年に示した増加量をかなり上回っており、最近青少年の発育が非常に盛んになってきたことを示している。しかしながら14才以上の年令は、22年においてはまだ相当の伸びがみられるのに比べ35年では却って伸びが減少し17才ではほぼ成長が停止している。

この様な現象は恐らく戦時中は食糧難によって幼児期に十

第27表 体位の年次推移  
男子・13才

		身 長	体 重
		cm	kg
昭 和	22 年	139.6	35.06
"	23 "	140.7	35.53
"	24 "	141.1	36.27
"	25 "	142.0	36.43
"	26 "	142.8	37.13
"	27 "	142.9	36.99
"	28 "	143.5	37.95
"	29 "	144.4	38.23
"	30 "	144.8	39.01
"	31 "	144.9	38.94
"	32 "	145.8	40.14
"	33 "	146.1	39.92
"	34 "	146.7	40.20
"	35 "	147.6	39.10